

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

信金中央金庫（証券コード:8421）

【据置】

長期発行体格付
格付の見通し

AA
安定的

■ 格付事由

- (1) 信金中央金庫（信金中金）は、信用金庫の余資運用のサポート、業務機能の補完、資本増強などを通じて、信金業界の信用力の維持・向上に取り組む中央金融機関であり、国内有数の機関投資家でもある。格付は、資産の健全性、高い資本充実度、信金支援における規律ある姿勢などを反映している。
- (2) 資産規模対比でみた収益性は低いが、利益の安定性は高い。与信ポートフォリオには、日銀預け金、日本国債、政府や大手上場企業向け貸出などが多く含まれるため、収益の柱である資金運用業務の利ざやが薄い。もっとも、資金量対比でみた経費率は極めて低い。与信費用が膨らむリスクは小さく、市場部門のリスクも適切にコントロールされている。事業会社向け融資や債券投資を拡大しており、最終利益の水準は高まっている。国内金利の上昇などが追い風となり、今後も一定の最終利益を確保していけると JCR はみている。
- (3) 市場部門で抱えるリスクは大きい。信金からの余剰資金の受け入れは信金中金に期待される重要な機能である一方、信金中金の投融資の規模を拡大させ、金利リスクや価格変動リスクなどを増大させる一因となっている。保有債券の規模は円貨・外貨とも大きく、金利上昇に伴う影響は一般的な商業銀行より大きい。このため、アセットスワップの活用や変動金利資産のウェートを高め実質的なデュレーションを 2 年台前半と短くしている。ファンド投資においても投資対象先や購入時期を分散することで価格変動リスクの拡大を抑制している。
- (4) 資本充実度は高い。リスクアペタイト・フレームワークの活用を通じて慎重な与信運営を継続しており、その他有価証券評価損などを控除した調整後コア資本比率は比較的高い水準で推移している。足元、信金からの受入預金が減少し資産規模の拡大ペースは緩やかとなっている。バーゼル規制最終化の完全実施がリスクアセットを押し上げる要素となるが、資本水準の優位性は保たれると JCR はみている。
- (5) 信金中金の事業は、信金業界の経営動向の影響を受ける。業界全体でみれば、コア業務純益は増益基調にあり、相応の収益力が確保されている。貸出残高の増加に加え、総資金利ざやが改善傾向にあることなどが堅調な収益を支えている。貸出資産の健全性や良好な資本水準も保たれている。一方、足元では保有債券の評価損が拡大し、その規模が資本対比で過大となっている信金の一部でみられる。金利環境の変化などにより、財務支援を必要とする信金が増える可能性には留意する必要があると JCR はみている。
- (6) 信金中金は、独自の業界内支援制度である経営力強化制度などを通じて、個別信金に資本供与を行っている。信金業界にとって信金中金の財務の健全性を保つことは、信金中金を通じた資金仲介・決済機能や業界全体への信託を維持する観点から非常に重要である。資本供与の総額には上限が定められており、その金額は長期的に減少傾向にある。今後も一定の規律のもとで信金支援に取り組んでいくと JCR はみている。

（担当）宮尾 知浩・木谷 道哉

■ 格付対象

発行体：信金中央金庫

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2025 年 12 月 5 日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：宮尾 知浩
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014 年 1 月 6 日) として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2024 年 10 月 1 日)、「銀行等」(2021 年 10 月 1 日) として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 信金中央金庫
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル